

令和7年度学校経営計画

東京都立府中工科高等学校
校長 高野 学

1 目指す学校像

(1) スクールミッション

卒業時には即戦力として社会に求められる人材を育成します。自ら考え、物事に柔軟に対応できる力を備え、社会インフラの整備や開発・設計などで社会に貢献できる技術者を育成します。

(2) スクールポリシー

① グラデュエーションポリシー

- ・幅広い教養を身に付け、物事に柔軟に対応できる力、新たな発想を生み出す力を育てます。
- ・機械工学、電気工学、情報工学の知識・技術を身に付け、ものづくりの根幹を支える力を育てます。
- ・すべての教育活動を通じて、自他を思いやる心、仲間と協働してものを作り出す力を育てます。

② カリキュラムポリシー

- ・機械、電気、情報に関する専門教科と不変的な共通教科を幅広く学べる時間割を置きます。
- ・体験型・課題解決型で教科横断的な学びを実践します。
- ・資格取得に向けたプログラムを実施します。

③ アドミッションポリシー

- ・ものを創り出すことに興味があり、将来は技術者として社会に貢献したいと考えている人を求めています。
- ・中学校で学ぶ基礎学力を概ね身に付けていて、本校でさらに学力を伸ばす向上心を持つ人を求めています。
- ・学校行事、部活動、生徒会活動に積極的に参加し、自他を思いやり仲間と協働できる人を求めています。

2 中期的な目標とその達成に向けた方策

(1) 中期的な目標

基礎的知識・技術、実践的スキル・態度が身に付き、広い視野でものごとを考え社会に貢献できるものづくりの心を持った人材を育成し、全ての生徒が希望する進路を実現できる学校を目指す。

(2) 達成のための方策

- ① 基礎的・基本的な知識・技術を定着させ、進路希望に応じたきめ細かな学習指導を徹底する。
- ② 「Next Kogyo START Project」に基づき改革を進め、ITスキルの習得を目指した授業、英語教育の充実、課題解決型学習の充実を図る。
- ③ キャリア教育を充実させ、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に付けさせる。
- ④ 特別活動を充実させ、生徒の自主性や社会性を育成し、帰属意識を醸成する。
- ⑤ 部活動を充実させ、心身の健康・体力の向上および技術技能の向上を目指しながら、思考力・判断力・表現力を磨き、人間力を育成する。
- ⑥ 全ての教育活動において生活指導を徹底し、基本的な生活習慣、ルールやマナー等の規範意識を身に付けさせる。
- ⑦ 保護者をはじめ外部機関と連携して、学校保健活動を充実させ、生徒の健康づくり活動を推進するとともに、生命尊重（自殺防止）や安全の確保に係る指導を徹底する。
- ⑧ 教育相談と「心の触れ合い」を重視し、親身で粘り強い指導を行う。
- ⑨ 地域連携を推進し、本校の特色ある教育を小・中学校、地域に積極的に広報する。
- ⑩ 管理運営規定に基づき組織的に学校運営を行い、教職員が一致協力し教育目標の実現を目指す。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1) 今年度における取組目標

工科高校改革を進展させ、生徒の力を真に伸ばし、中学生や広く都民から魅力ある工科高校として認知されることを目指す。

(2) 達成に向けた具体的方策

ア 学習指導

- ① 新学習指導要領に基づいた各教科シラバスを作成し、「A L的手法」「ルーブリックを活用した評価」を行い、指導と評価が一体化した授業を実践する。
- ② P B Lを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。
- ③ 一人一台端末を有効に活用し、効果的・効率的な授業を展開する。
- ④ 少人数指導を生かし、一人一人に寄り添った個別最適な学びを実現する。
- ⑤ 情報技術科は、P-T E C H事業を有効に活用し、高度な情報技術に触れる機会を設けたり、情報技術者と交流する機会を設け、情報技術者の育成を目指す。
- ⑥ 工業情報数理を核に情報教育を充実させ、すべての科においてI Tパスポートの取得を目指す。
- ⑦ 第2種電気工事士について、電気科中心に他科の生徒にも学習機会を設け、学校全体で取得を目指す。
- ⑧ 英語教育の充実を目指し、令和8年度生からカリキュラムを見直す。
- ⑨ 専門教科科目との関連性を考慮し、令和8年度生から理科科目の配置を見直す。(物理基礎1年生、化学基礎2年生、科学と人間生活3年生)

イ 進路指導

- ① 「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な就職指導および進学指導を行う。
- ② 外部学力診断テストおよび分析会を行い、生徒の能力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。
- ③ 進路実現に向けて、論文指導および面接指導を学校全体で組織的に行う。
- ④ インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。
- ⑤ 総合型大学入試を目指した進路指導計画を立て、生徒に目標を持たせ、1年生から授業や学校行事、部活動等への取り組みの充実を促す。
- ⑥ 求人票管理システムを導入し、管理業務の自動化・省力化を図る。

ウ 生活指導

- ① 朝の立ち番指導を行い、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。
- ② 保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。
- ③ 「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にしない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。
- ④ 授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。
- ⑤ 各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。

エ 特別活動・部活動指導

- ① 部活動・特別活動および体育の授業において、心身の健康、体力の向上を目指す。
- ② 文化スポーツ特別推薦を活用し、部活動に対する意欲のある生徒の入学を促す。
- ③ 部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組み活躍する機会を作り出す。
- ④ 「2020オリンピック・パラリンピック教育レガシー」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。
- ⑤ 行事や集会等における校歌斉唱、地域への貢献や奉仕活動等などの取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。

オ 保健指導

- ① スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。
- ② 感染症対策を施し環境整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境をつくる。
- ③ 特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。

カ 募集・広報活動

- ① 学校案内パンフレットの作成およびHPのリニューアルを行う。
- ② 中学校訪問および生徒による母校訪問、見学会・説明会・体験授業・体験入部を実施する。
- ③ 校舎前面懸垂幕、校門横懸垂幕、校門横掲示板の有効活用を図る。
- ④ 近隣中学校や地域との交流を行う。

キ 学校経営・組織体制

- ① デジタル技術を活用しDXを進め業務の質を高めるとともに、ICT環境を最大限活用して生徒の学びを保証する。
- ② 日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり、服務事故防止に努める。
- ③ 体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。
- ④ 管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。職員会議のペーパーレス化を行い、会議時間を1時間以内とする。
- ⑤ 防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携して実践的な防災教育を推進する。

4 重点目標と方策（数値目標）

項目	数値目標	昨年数値
就職内定率	100%	100%
進学決定率	100%	100%
資格取得者数		
機械検査三級	25名	10名
第二種電気工事士	100名	82名
第一種電気工事士	20名	12名
ITパスポート	5名	0名
部活動加入率	95%	95%
いじめ・体罰件数	0件	1件
ホームページ閲覧数	42万回	42万回
学校説明会参加者数	1200人	1200名
入学者選抜応募倍率		
推薦選抜	1.6倍	1.6倍
学力選抜	1.1倍	1.1倍
中途退学者数	5人	8人
特別支援教育・教育相談に関する委員会開催回数	10回	9回
学校満足度（学校評価アンケート）		
生徒	85%	80%
保護者	90%	93%
勤務時間外の在校時間が月45時間超の延べ人数	20人	43人